

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターはぐはぐ子ども村西都		
○保護者評価実施期間	令和8年1月16日		～ 令和8年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	57名	(回答者数) 46名
○従業者評価実施期間	令和8年1月16日		～ 令和8年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援しやすい環境である。	サーキット室・療育室・プレイルームと部屋を分けて支援しています。部屋を変わることでの気持ちの切り替えになったり集中しやすい環境であると自負しています。園庭も広く自然も豊かな所なので春はつくし取りをしたり夏は虫捕り、秋はイチヨウの葉を使って遊んだり、冬は凧揚げなど四季折々に楽しんでいます。	室内外の環境を整え利用者が楽しく過ごせるよう心掛け、季節を肌で感じながらより良い支援ができるようにしています。職員間の共通理解を高めるため朝礼にて情報交換したり確認をしています。
2	送迎に時間がかからない	西都市一円の利用児のため送迎に時間もかかりません。送迎車の中では利用者がいろいろな話を聞かせてくれたり周りの景色を見て話しをしたりと交流もできます。大勢の中では話せない利用者様も車内ではよく話をしています。	車内も療育の一環ととらえ会話や経験体験話等楽しく時間を過ごせるように言葉かけなど工夫しています。
3	職員間の風通しが良い。	職員(ドライバーも含め)9人の職場のため小さな疑問や悩み事など話しやすい環境です。	チームワークの良さを出し、より一層風通しの良い環境作りを心掛けていきます。利用者様一人一人に合わせた支援を行うためにも職員間のチームワークは大事だと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流が少ない。	イベントで交流の機会がありますが、地域で開催する交流等となると時間が合わず参加することができていません。	地域で開催されるもので時間の調整ができるようでしたら時間を設け交流を深めていきたいです。
2	当日の情報が欲しいと要望がある。	毎月お便りを出し、各利用者様には年に4回ミニお便りにて情報を提供しています。当日の情報は職員の支援の充実を図るためにお便り帳等の記入はしていません。	お便りの内容の見直しをしたり、電話やメール等を使って伝えるなどこれまでの方法で密に行えるようになっていきます。また以前行っていた母子通園を再開し保護者等の交流の場を設け情報共有等考えています。
3			